

▶ 消防団員災害救援ストレス対策研修を実施して ◀

公益財団法人大阪府消防協会

1. はじめに

大阪府は、古くから西日本の経済・文化・交通の中心地です。

その地形は、西に大阪湾を臨み、大阪平野の周りを北は北摂山地、東は生駒・金剛山地、南は和泉山地といった三方が山地に囲まれた盆地状の地形が特徴となっています。

大阪平野の多くの土地は干拓や埋め立てによって形成され、昔から洪水や浸水の被害にあってきたため、数々の治水事業が行われて現在にいたっています。

その面積は約1,900km²と都道府県で2番目に狭いですが、人口規模は日本第3位の880万人であり、人口密度は日本第2位となっています。

気候は瀬戸内海式気候に分類され、年間を通して天気安定しています。平均的な降水量は少なめであるという特徴があります。

2. 大阪府内の消防団について

郷土大阪を守る消防団・団員数は、4月1日現在、44団10,545人となっております。消防団員の減少が全国的な重要課題となっておりますが、ここ5年間の数字を見ますと、消防団員数は多少の増減はありますがほぼ横ばい、充足率も約93%を維持しています。この数字は、地元住民の皆さんが団員数の減少は消防力の低下を招くとの思いによる努力の結果であるといえます。

大阪の大部分は都市型で常備消防の整備が進んでいます。全国的な流れですが、消防団が活動する機会は火災現場等での後方支援、住民への予防啓発が多くなっています。また、昼間は地域に不在のサラリーマン団員の比率が高くなってきています。そのため、今後より一層、活躍が期待される女性団員は年々増加しており、

平成5年に大阪で初めて採用されて以降、10年前には採用8団だったのが、4月1日現在では府内消防団の約半数にあたる21団にのぼり、その人数は229人となっています。女性採用率、男女の団員構成比率は全国的に見て少し低いですが、新たに採用に向け動いている消防団もあると聞いています。

3. 開催の経緯

当協会では、従前より消防団員に対する福利厚生、災害に備えた教育訓練・各種研修を実施しており、年々その中身を充実させていっております。

その一環として、これまでも消防基金の公務災害防止研修事業を活用して消防団幹部を対象に「消防団員安全管理セミナー」を、また事務担当者を対象に「実務研修会」を実施しており、公務災害の発生防止に効果を上げてきました。

近年、東日本大震災や広島県集中豪雨、熊本地震などの大規模自然災害の脅威を目の当たりにするにつれ、その教訓を活かして近い将来大阪において発生が危惧されている南海トラフ地震に備える必要があります。

いざという時に現場で指揮をとる消防団長からは、救援活動中に凄惨な現場に遭遇した団員のストレス対策について、また、避難所設営時に中心になると想定される女性消防団員からは、被害にあわれた方々に対する接し方や自らも被災した状況で活動にするにあたっての心構えについて講習を受けたいという要望があり、「消防団員災害救援ストレス対策研修」を活用することとなりました。

4. 研修会を実施して

平成28年5月25日(水)には消防団長と消防団事務担当者を対象に、また同年7月10日(日)には女性消防団員を対象に、両日とも兵庫県こころのケアセンターの大澤智子氏を講師にお迎えして講義を行っていただきました。

消防団長等を対象にした講義では、惨事ストレスの理解と予防、惨事ストレスへの対応、組織全体での見守りについて講演いただきました。

受講者からは、「副団長・分団長と情報共有し組織的に対策に力をいれていきたい」「普段からお互いのサインに注意し組織全体で見守りが大切と感じた」といった幹部としての自覚がさらに強まった感想が多く寄せられました。

一方、女性消防団員を対象にした講義では、PFA(サイコロジカル・ファーストエイド)、被災地での立ち振る舞いや自身のケアの方法について講演いただきました。

受講者からは、「人に対する接し方は団活動だけでなく今後の人生に大いに活かしたい」「できることをする、無理をしない、自分がどう関わっていくのか考える」「やらないといけないという

平成28年5月25日(水)



焦りが少し楽になった」といった今後の消防団活動に前向きになれた感想が多くありました。

共に同じ研修・講師でありながら、要望や受講対象者にあわせて柔軟に内容を変えていただき、たいへん有意義な研修となりました。

5. 今後の取組について

近年、大規模な自然災害だけでなく火災・救急における消防の果たすべき役割は非常に大きく、住民の期待は益々高まっています。特に地域防災力の要である消防団員の社会的責任は増加しており、その使命感から精神的ストレスは本人が自覚しないまま進行しています。

両日の研修会における受講者の感想を見ましても、各々の立場や責務からストレスを常に感じられていたのが多く見受けられました。

今回は対象でなかった分団長・部長級の中級幹部や消防団歴の浅い団員にもストレス対策研修を受講いただく機会をつくり、すべての消防団員が心身ともに良好な状態を保っていける環境作りを目指して今後も取り組んでいきたいと思えます。

平成28年7月10日(日)

